



を視察した。

一行は道の駅甘楽で、運営法人の三木純一理事長から農産物販売コーナーや食堂の運営形態を聞いた。

その後、高崎市吉井町長根の農業用ため池を訪れ、長根水利組合元組合長の栗本文憲さんの説明を受けた。写真。栗本さんは約200戸で構成する民間組織で30〜35戸のグループをつくり、各班の代表によって運営する方式を紹介。アフリカでは国が造った大規模な水利施設が機能せず、小規模施設が主流だといいい、研修員は行政と組合の関

# 甘楽周辺で農業学学ぶ

## 7カ国の研修員が視察

日本の農協や水利組合の組織運営を学ぶために来日しているカンボジア、マダガスカル、アゼルバイジャン、ブルンジなど7カ国の

係を熱心に質問していた。富岡市の甘楽多野用水土地改良区も視察した。

農業系公務員ら9人が30日、甘楽町周辺の農業関連施設や水利組合

国際協力機構（JICA）の事業で、甘楽町のNPO法人自然塾寺子屋が本県での研修を担当した。